

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 14 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520531

研究課題名（和文）日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的研究

研究課題名（英文） Basic study for the text making of the history of Japanese language teaching

研究代表者

小川 誉子美（ OGAWA Yoshimi ）

横浜国立大学・留学生センター・教授

研究者番号：50251773

**研究成果の概要（和文）：** 日本語教育史という領域を日本語教育学の学問領域の中でも重要なもの一つとしてより活性化することを目的に、テキストの理念や枠組みを議論し、テキスト『日本語をめぐる国際交流史』を作成した。本テキストでは、アジアのみならずその他の地域や現代の視点、言語教育の目的を重視し、内外の最新の研究成果をとりいれてシラバスを構築した。さらに、国際的な活動を目ざす学生の関心を刺激するために必要なテキストの形態を考案し、共同で取り組む課題や参考文献を充実させた。

**研究成果の概要（英文）：** In order to activate the realm of the history of Japanese language teaching within the context of the discipline of Japanese language education, we compiled this textbook entitled "The International History of the Japanese Language." By incorporating the most recent research in Japan and overseas, we made a concise outline of the subject in question. The newest viewpoints are considered, not only of Asian countries but of diverse areas, and a special emphasis is placed on the aims of language education. In addition, we have devised the form of a textbook in order to stimulate students wishing for international activities, and enriched the subject matters and references for study and research in groups.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	300,000	90,000	390,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本語教育 日本語教育史

キーワード：国際交流史 日本語教育 日本語教育史 テキスト 教材

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本語教育学の学史の一部といえる日本語教育史は日本語教育能力検定試験の出題範囲でもあり、その位置づけは明確であるが、日本語教員養成課程で、当該科目が確立されているとは言いがたく、また、その内容に関しても、昨今の研究成果が十分に反映されているわけではない。実学としての日本語教育学に必要な教育史には、現代の課題解決や将来の設計をはじめ、現代的な視点や関心に応えられるものでなければならない。しかし、このような視点からのシラバスは確立されておらず、また、テキストも開発されていない。

(2) これまで日本語教育史が主として対象としてきたのは、アジアの植民地や占領地等で行われた近代の日本語教育、欧米の連合国等で行われた敵性語教育、移民先での継承語教育であったが、小川(2008)は、対日世論の是正および同盟関係強化の対外アピール等宣伝を目的とした日本語教育があったことを指摘し、広報宣伝という目的をこれまでの類型に加えた。広報活動という目的が過去の欧米の語学教育推進の事例や今日の語学教育にも通じることは、現在アメリカや中国をはじめ各地で安全保障や国家戦略の枠組みで語学教育が重視されている現実、アニメ人気を受けた日本語講師派遣プロジェクト(2008年)でも明らかである。しかし、一連の先行事例、広報活動という側面を持つ語学教育の仕組みが明確にされていない。

## 2. 研究の目的

本研究の中心は次の二つである。

- (1) テキスト作成
- (2) 史実の再検証

(2) は、(1) を補完するものであり、従来通り、関係諸学会での口頭発表と論文投

稿を通じ研究成果を公開していく。本研究の中心である(1)は、こうした作業を含む、最新の研究成果をとり入れ、新視座に基づいたシラバスとその基礎理念について議論し、現代的関心に応えるためにアプローチに工夫をした教育史テキストを作成するものである。なお、本テキスト作成により、当該領域への関心を刺激し、実学としての日本語教育学の学史の一つとしてのあらたな日本語教育史の確立の可能性をさぐることを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 従来の代表的図書の扱う項目、昨今の研究成果(書籍、内外の論文等)の精査を通じ、本研究が目指す新テキストの理念と枠組みを作成し、名称を『日本語をめぐる国際交流史』とした。

(2) H21~22年度には、日本語教育学会のパネルセッションや日本語教育世界大会、また、隣接分野での研究会で口頭発表を行い、本テキストの理念や枠組みに関し意見を得、それを踏まえ枠組みを確定した。

(3) 本研究の前段階として、代表者は、本務校である横浜国立大学の授業(全学向け科目)において、数年にわたり、本研究の一部を試行し、国際的な活動をめざす学生への当該領域に関する萌芽的関心を刺激するために必要なテキストの形態やアプローチについて経験的に知見を得てきた。確定したテキスト理念や枠組みにおいての再試行により、これを確定した。

(4) 章毎に分担執筆し、テキスト(1学期で使用する分量)を完成、直接印刷の形で製本する。なお、年度をまたいで、関係者に配布し意見を仰ぐ。

## 4. 研究成果

本研究テーマに関連し、代表者と分担者は、

本研究期間中(2009年度～2011年度)に、5. 示した通り、19件の論文(共著含む)、2件の単著を出版、8件の口頭発表を国内外で行った。特に報告すべき成果は、次の3件である。

(1) 2010年5月には、本研究の問題意識をめぐって、日本語教育学会春季大会において「日本語教育史研究の新しい視座と可能性」と題したパネルセッションを行った、

(2) 2011年7月には「日本語教育史のテキスト作成に向けた基礎的考察」を台湾で行われた国際日本語教育学会で発表し、この内容をまとめた論文を2011年に中国・華東師範大学出版社による『日語教学研究』に発表した。

(3) 2011年度末には『日本語をめぐる国際交流史』と題した113頁のテキストを印刷した(200部)。本テキストの特徴は次の2点である。

(1) 有史以来の語学教育の展開に関する基礎的知識を整理し、今日との関わりや課題から出発し、留学生を含む学生ら、将来の日本語教育や国際交流に従事する者の態度変容を促す「仕組み」作りを行ったこと、(2) 従来日本語教育史が扱ってきた分野に加え、関連領域の成果を精査し、対外交流における言語の専門家の役割や教育体制整備の理念について個人の関心に沿って課題に取り組む機会を設けた。目次は以下のとおりである。

#### ■言語教育の展開と日本語教育の位置づけ

1. 外国語学習の変遷
2. 海外の日本語教育
3. 国内の日本語教育
4. 「日本語」をめぐる動き—近代日本の〈日本語〉〈国語〉—

#### ■日本語教育の展開1・・・黎明期の展開と日本における展開

5. 黎明期の日本語学習—江戸時代まで—

6. 近代日本の日本語教育(戦前)—留学生・宣教師たちの日本語学習—

7. 戦中・戦後の日本語教育

#### ■日本語教育の展開2・・・各地域における展開

8. アジア・太平洋地域の日本語教育

9. 欧米他の日本語教育

#### ■人物と国際交流史

10. 人物と業績

11. 日本語をめぐる国際交流史「年表」

付録

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### 〔雑誌論文〕(計19件)

- ① クレメンス・シャルシュミットの日本再訪：日本学者の報告書より」小川蒼子美『日本語教育連絡会議論文集』24号 p. 48-57, 2011
- ② 日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的考察」小川蒼子美・河路由佳『日語教学研究』(査読無)河東師範大学出版社 pp. 214-226, 2011
- ③ 「黎明期日本語講座の目的—ヨーロッパ・中東における事例から—」小川蒼子美”Cairo Symposium on Japan Studies 2010”横浜国立大学留学生センター pp. 20-28, 2011
- ④ 「日本語講師北山淳友の事績—戦間期の対独時代を中心に—」小川蒼子美『日本學刊』香港日本語教育研究会 pp. 4-15, 2011
- ⑤ 1942年・1943年における長沼直兄の出版計画—「重要文書」と書かれた長沼直兄自筆ノートより—」河路由佳『日本語教育研究』57号 学校法人長沼スクール、pp. 1-17, 2011

- ⑥ 「日本語教育史研究の新しい視座と可能性—発掘された資料が語るもの—」河路由佳・小川蒼子美・嶋津拓・長谷川恒夫  
「資料が語る日本語講座開設期と動機の多様性—ヨーロッパを事例として—」  
『2010年度日本語教育学会春季大会（パネル発表）予稿集』pp. 44-55 2010
- ⑦ 「1945・1946年「日本語教育振興会」から「言語文化研究所」へ—終戦前後の日本語教育史の「通説」再考—」河路由佳  
平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（課題番号18320085）『第二次大戦期 日本語教育振興会の活動に関する再評価についての基礎的研究 報告 3』pp. 33-59 2010
- ⑧ 長沼直兄（1945）『First Lessons in Nippongo』の成立と展開—長沼直兄の戦中・戦後—『東京外国語大学論集第81号』河路由佳 pp. 113-132 2010
- ⑨ 日本語教育振興会活動資料 『日本語』目次一覧（編集）河路由佳平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（課題番号18320085）『第二次大戦期 日本語教育振興会の活動に関する再評価についての基礎的研究 報告 2』pp. 5-32, 2010
- ⑩ 日本語教育振興会活動資料『日本語』彙報一覧（編集）平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（課題番号18320085）『第二次大戦期 日本語教育振興会の活動に関する再評価についての基礎的研究 報告 2』pp. 33-100 2010
- ⑪ 日本語教育振興会会議録（1941年8月25日—1945年12月27日）（編集）河路由佳平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（課題番号18320085）『第二次大戦期 日本語教育振興会の活動に関する再評価についての基礎的研究 報告 2』pp. 101-241 2010
- ⑫ 「学術交流と広報活動」小川蒼子美『村山七郎生誕百年記念シンポジウム論文集』村山七郎生誕百年記念シンポジウム実行委員会 pp. 67-76, 2009
- ⑬ 「黎明期の日本語教授者をめぐって—脇水鉄五郎とハンガリーの関わり—」小川蒼子美『ユーラシアの再発見』pp. 167-178 2009
- ⑭ “Research on Japanese Teacher at the Early Stage: WAKIMIZU and Hungary “ OGAWA, Yoshimi Károli Gáspár református Egyetem, óta tart történelem és országismeret kurzusokat 2009
- ⑮ 「鈴木忍とタイ戦時下のバンコク日本語学校での仕事を中心に—」『アジアにおける日本語教育—「国語としての日本語」修士課程設立一周年セミナー論文集』河路由佳チュラーロンコーン大学 pp. 3-28 2009
- ⑯ 「創立者長沼直兄年譜」『財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校60周年記念誌』河路由佳（財）言語文化研究所 pp. 97-110 2009
- ⑰ 「財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校60周年記念座談会・長沼直兄と東京日本語学校ゆかりの方々に草創期の話をきく」 編著 河路由佳『財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校60周年記念誌』（財）言語文化研究所 pp. 4-70 2009
- ⑱ 「戦時中の鈴木忍・高橋一夫と日本語教育—1974年の座談会録音テープより（1）—」河路由佳『東京外国語大学論集』no. 78 pp. 303-316 2009

- ⑱ 「戦後（1945-1974）の高橋一夫・鈴木忍と日本語教育—1974年の座談会録音テープより（2）—」 河路由佳 『東京外国語大学論集』 no. 79 pp. 415-433 2009

〔学会発表〕（計8件）

- ① Yoshimi Ogawa, Chikako Shigemori Bucar Do Chong Ho as lecturer for Japanese language and his contact in Vienna: Materials from Finland and Japan, New findings on early informal exchange and personal relations between Korean and a citizens either the Austrian and Hungarian monarchy or its successor-states, University of Vienna, 30-31 January, 2012
- ② 河路由佳 「アメリカ・日本・アジアのはざまで—日本語教育者・長沼直兄の「激動」の戦前／戦中／戦後」平成23年度附属図書館公開講演会 於：東京外国語大学, 2011年12月
- ③ 小川誉子美 「ヨーロッパにおける戦前の日本語講座—ブルガリアの事例と背景—」第24回日本語教育連絡会議 於：ブルガリアソフィア大学, 2011年8月
- ④ 小川誉子美 「日本語講座の展開目的の多様性—ヨーロッパ・中東の事例から—」カイロ大学文学部日本語学科設立35周年記念シンポジウム 於：カイロ大学, 2010年11月
- ⑤ 小川誉子美 「教育史研究の可能性—戦前のヨーロッパの事例から—」日本総合学会秋季大会 於：明治大学, 2010年11月
- ⑥ 小川誉子美 「日本人講師と日本語講座—イタリア・ドイツの事例から—」日本独学史学会秋季大会 於：日本医科大学, 2010年11月
- ⑦ 小川誉子美・河路由佳, 「日本語教育史のテキスト作成に向けた基礎的考察」, 2010世界日本語教育大会 於：台湾政治大学, 2010年8月1日

- ⑧ 河路由佳・小川誉子美・嶋津拓・長谷川恒雄, パネルセッション「日本語教育史研究の新しい視座と可能性」, 2010年度日本語教育学会春季大会, 於：早稲田大学, 2010年5月22日
- ⑨ 河路由佳, 長沼直兄（1945）『First Lessons in Nippongo』の成立と展開—戦中・戦後の長沼直兄—, 日本語教育史研究会 2009年度第1回研究会, 2009年9月19日

〔図書〕（計2件）

- ① 『欧州における戦前の日本語講座—実態と背景—』 小川誉子美 風間書房 2010, 306頁
- ② 『日本語教育と戦争—国際文化事業の理想と変容—』 河路由佳, 新曜社, 2011, 384頁

〔その他〕（本文引用）

『欧州における戦前の日本語講座—実態と背景—』 小川誉子美 学位論文（政策・メディア, 乙種 博士, 慶應義塾大学） 2008

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 誉子美 (OGAWA YOSHIMI)  
横浜国立大学・留学生センター・教授  
研究者番号：50251773

(2) 研究分担者

河路 由佳 (KAWAJI YUKA)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：00272641